

健康診査に尿Na/K比測定を導入して見えてきたこと ～宮城県登米市で起こった意識改革～

Findings from the introduction of urinary Na/K ratio measurement using Na/K ratio monitor to health check-ups: The innovation of consciousness in Tome city

小暮 真奈

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

【目的】 2017年度より宮城県登米市の健康診査（健診）では尿Na/K比測定を導入しており、Na/K比に対する住民の意識変化も含め、一定の成果があがっている。本発表では昨年度実施した、Na/K比の認知度調査の結果を中心に本事業の概要を紹介する。

【方法】 登米市では健診時にナトカリ計（OMRON, HEU-001F）を用いた尿Na/K比測定を行っており、その場で受診者に結果を返却後、Na/K比に関する食生活情報も提供している。データ入力には健診団体に依頼し、得られた尿Na/K比値は健診情報と併せて東北大学で分析している。昨年度は登米市・登米市以外の宮城県・栃木県・京都府の住民3,022人（平均年齢44.5歳）にインターネットでのNa/K比の認知度調査も実施した。

【成績】 Na/K比の認知度調査では、尿Na/K比を測定したことがあると回答した者の割合が登米市（n = 181）で16.6%、その他の地域で平均1.5%であった。一方でNa/K比という言葉を見聞きしたことがあると回答した者の割合は登米市で31.5%、その他の地域で平均11.9%であった。また尿Na/K比は測定していないと回答し、かつNa/K比という言葉を見聞きしたことがあると回答した者の割合は登米市で19.2%、その他の地域では平均11.2%であった。

【結論】 尿Na/K比測定を健診に導入した結果、Na/K比という言葉につき健診受診者のみならず健診受診者以外にも広く普及できる可能性が示唆された。健診受診者以外の血圧への波及効果の可能性もある。